Te Deum
Messe Nr. 3
BRUCKNER

Bruckner ブルックナー

合唱団 鯨

第14回演奏会

1972. 6 . 6 (火) 7時開演
日比谷公会堂

TE DEUM
テ デウム

MESSE NR.3
ミサ第3番

指　揮　小林研一郎
演　奏　新交響楽団
独　唱　小池容子　秋葉京子　吉田博久　平野忠彦



プロフィール



指揮　小林研一郎

東京芸術大学作曲科及び指揮科卒業。指揮を山田一雄、渡辺暁雄に、作曲を石桁真礼生に師事。民音指揮者コンクールに入選、奨励賞を受賞。群響定期、オペラ「卒塔婆小町」、「小判狂言」、OB交響楽団定期、東京音楽大学定期、新響定期、第九特別演奏会、百万人の音楽、テレビオペラなど多方面に活躍し、現代音楽にも欠かせない存在である。昨年8月、東京交響楽団の副指揮者に就任。その華麗さと緊張の交錯した指揮で、今後の指揮界で最も期待される若手指揮者。

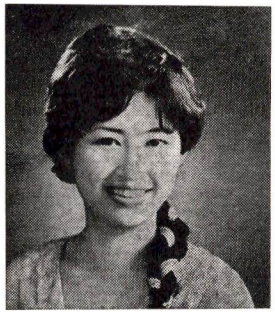
ソプラノ　小池容子

東京芸術大学卒業。同専攻科修了。二期会会員。昭和42年度音楽コンクール第二位入賞。在学中、芸大オペラ「ラ・ボエーム」のミミを演じて注目された。ヘンデルの「メサイア」はじめ宗教曲に多くのレパートリーを持ち、コンサート歌手として活躍してきたが、オペラでも「ラインの黄金」のウォークリンデや、「蝶々夫人」の蝶々さん、「魔笛」の童子を演じ、好評を博している。45年渡伊、マリア・カルヴォーネロに師事し、46年帰国。今後の活躍が期待される。



メゾソプラノ　秋葉京子

東京芸術大学卒業。平原寿恵子に師事。二期会研究生。昭和46年、成績を認められて、NHK・オペラアワーで「ルチア」のアリサを演じたほか、同年の二期会オペラ「リゴレット」に抜擢され、マッダレーナおよびジョヴァンナを演じて期待にこたえた。また同年の文化庁青少年芸術劇場オペラ「蝶々夫人」ではケート役で出演して、好評であった。二期会の「ホフマン物語」では、母の声を歌うなど、期待される新人である。鯨との共演は、昨年の「第九」に次いで二回目。



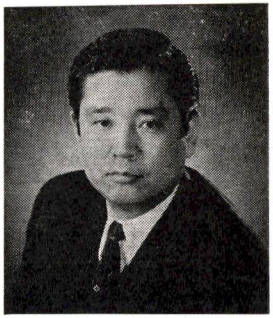
テノール　吉田博久

東京芸術大学卒業。同大学院オペラコース修了。ニコラ・ルツチ、ロドルフ・リッチに師事。大学院在学中に、オペラ「ファルスタッフ」、「フィガロの結婚」、「ドン・ジョヴァンニ」に出演。ヴォイストレーニングに意欲をもち、独協大学、立教大学、鯨のヴォイストレーナーをつとめるほか、吉田音楽研究所を主宰して後進の育成に成果をあげている。また昭和40年から5年間、群馬音楽センター合唱団の常任指揮者をつとめ地方の音楽文化向上にも大いに貢献している。



バリトン　平野忠彦

東京芸術大学卒業。二期会会員。昭和36年度音楽コンクール入選。芸大オペラ「ウインザーの陽気な女房達」のファルスタッフでデビュー。その頭脳的な演技は高く評価された。その後「フィガロの結婚」のフィガロほか、数多くのオペラに主演。38年には、清水脩のオペラ「聟選び」のアメリカ公演に参加、絶賛を浴びた。43年、ザルツブルグ音楽祭オペラ賞受賞。オペラ以外にも宗教曲、第九、ドイツリードなどレパートリーは広く、わが国バリトン界を代表する一人である。



TE DEUM

Te Deum laudamus,
te Dominum confitemur.
Te æternum Patrem
omnis terra veneratur.

Tibi omnes Angeli, tibi cœli
et universæ potestates.
Tibi Cherubim et Seraphim
incessabili voce proclamant :

Sanctus,
sanctus,
sanctus Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt cœli et terra
majestatis gloriæ tuæ.

Te gloriosus Apostolorum chorus.
Te Prophetarum laudabilis numerus.
Te Martyrum candidatus
laudat exercitus.

Te Per orbem terrarum
sancta confitetur Ecclesia,
Patrem immensæ majestatis,
venerandum tuum verum et uuicum Filium,
sanctum quoque Paraclitum Spiritum.

Tu, Rex gloriæ, Christe.
Tu Patris sempiternus es filius.
Tu ad liberandum suscepturus hominem
non horruisti Virginis uterum.

感謝唱

神なるおん身をわれらはたたえ，
主なるおん身をわれらは讃美します。
永遠のおん父なる
おん身を全地はおがみます。

すべての天使も，天とすべての権力ある者も，
おん身に向い，
ケルビムもセラフィムもおん身に向い，
絶えまなく声高らかにうたいます。

「聖なるかな」
「聖なるかな」
「聖なるかな，万軍の神なる主。」
「天も地も，おん身の
栄光ある御霊威に満ちている」と。

かがやく使徒の群れもおん身を，
予言者のとうときあつまりもおん身を，
清き殉教者の一軍も
おん身をたたえ，

全地にあまねき聖会も
おん身を讃美したてまつります。
限りなき御霊威のおん父，
いとたかきおん身のまことのおんひとり子
聖にして慰めぬしなる聖霊とともに。

おん身，栄光の王なるキリストよ，
おん身こそ，おん父の永遠のおん子。
おん身は，世を救うため人となろうとして，
おとめの胎をもいといたまわず，

Tu, devicto mortis aculeo,
aperuisti credentibus
regna cœlorum.

Tu ad dexteram Dei sedes,
in gloria Patris.
Judex crederis esse venturus.

Te ergo quæsumus,
tuis famulis subveni,
quos pretioso sanguine redemisti.

Aeterna fac cum sanctis tuis
in gloria numerari.

Salvum fac populum, tuum, Domine,
et benedic hæreditati tuæ.
Et rege eos et extolle illos
usque in æternum.

Per singulos dies benedicimus te.
Et laudamus nomen tuum
in sæculum, et in sæculum sæculi.

Dignare, Domine, die isto
sine peccato nos custodire.

Miserere nostri, Domine,
miserere nostri.

Fiat misericordia tua Domine super nos,
quemadmodum speravimus in te.

In te Domine speravi :
non confundar in æternum.

おん身は，死のとげにうちかち，
信ずる者のために天国を
開きたまいました。

おん身は，おん父の栄光のうちに，
神の右に座したまい，
さばき主としておいでになると信じられたまいりました。

おん身に願いたてまつります。
尊きおん血をもってあがないたまいししおん身の
しもべを助けてくださいますように。

(そのしもべを)おん身の諸聖人とともに
栄光のうちにかぞえてくださいますように。

主よ，おん身の民を救い，
おん身の世つぎを祝し，
かれらを治め，また永遠に至るまで，
かれらを高く導きたまえ。

われらは，日々，おん身に感謝し，
おん身のみ名を，世々に，
また代々に至るまでにたたえたてまつります。

主よ，この日，われらが罪を犯さないよう
われらを守りたまえ。

主よ，われらをあわれみたまえ。
われらをあわれみたまえ。

主よ，おん身により頼んでいますわれらのうえに，
おん身の慈悲を垂れさせたまえ。

主よ，われらは，おん身により頼んでいます。
われらの望みは永遠にむなしいものとはならないでしょう。

MESSE 対訳

KYRIE

Kyrie eleison. Christe eleison.

GLORIA

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus
bonae voluntatis. Laudamus te,
benedicimus te, adoramus te, glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter
magnam gloriam tuam. Domine Deus,
Rex coelestis, Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris,
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes addextram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus sanctus, tu solus Dominus,
tu solus altissimus Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris. Amen.

CREDO

Credo in unum Deum.
Patrem omnipotentem, factorem coeli et terrae,
visibilium omnium et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filium Dei unigenitum, et ex Patrenatum ante
omnia saecula. Deum de Deo,
lumen de lumine, Deum Verum de Deo vero,
genitum non factum, consubstantialem Patri,
per quem omnia facta sunt.

あわれみの讃歌

主よ，あわれみたまえ。キリストよ，あわれみたまえ。

栄光の讃歌

いと高きところには神に栄光あらんことを。
地には善意の人に
平和あらんことを。われら汝をほめ
汝をたたえ，汝をおがみ，汝をあがめたてまつる。
汝の大いなる栄光のゆえに
われら汝に感謝したてまつる。主なる神，
天の王，全能の父なる神よ。
主なる御ひとり子，イエス・キリスト。
主なる神，神の小羊，父の御子よ，
世の罪を除きたもう者よ，われらをあわれみたまえ。
われらの願いをききいれたまえ。
父の右に座したもう者よ，われらをあわれみたまえ。
汝のみ聖なり，汝のみ主なり，
汝のみいと高き者なれば，イエス・キリストよ。
聖霊と共に父なる神の栄光のうちにあれ。アーメン。

信仰宣言

われは信ず，唯一なる神を。
われは信ず，全能の父，天と地と，
見ゆるもの見えざるもの，すべての造り主を。
われは信ず，唯一の主イエス・キリスト，
神の御ひとり子，父より生まれし者を，
よろず世のさきに。神よりの神，
光よりの光，まことの神よりのまことの神，
造られずして生まれ，万物の造り主なる父と
一体なる者を，われは信ず。

Qui propter nos homines, et propter nostram
salutem descendit de coelis.
Et incarnatus est de Spiritu Sancto ex
Maria Virgine, et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis sub Pontio Pilato,
passus et sepultus est.
Et resurrexit tertia die secundum Scripturas;
et ascendit in coelum, sedet ad dexteram Dei
Patris, et iterum venturus est cum gloria
judicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem,
qui ex Patre Filioque procedit, qui cum Patre
et Filio simul adoratur et conglorificatur,
qui locutus est per Prophetas.
Confiteor unum baptisma in
remissionem peccatorum mortuorum
expecto resurrectionem mortuorum
Et expecto resurrectionem mortuorum,
et vitam venturi saeculi. Amen.

われら人間のために，またわれらの救いのために，
天より下りし者を，われは信ず。
われは信ず，聖霊によりて処女マリアより
肉体を受け，人となりたまいし者を。
われらの為にポンティオ・ピラトのもとで十字架につけられ，
苦しみを受けて葬られし者を，われは信ず。
われは信ず，聖書にありし如く三日にして蘇り，
天にのぼりて，父の右に座し，
栄光とともに再び来たりて
生ける人と死せる人とを裁きたもう者を，
またその国には終りなきことを。
われは信ず，聖霊にして生命の与え主なる者，
父と子とより出で，父と子と共に拝されたたえられ，
予言者によりて
語りたまいし者を。
罪の赦しのためなる
唯一の洗礼をみとめ，
死者のよみがえりを待ち望む。
死者のよみがえりと
来世の生命とを待ち望む。アーメン。

SANCTUS

Sanctus, sanctus, sanctus, Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra gloria eius.
Osanna in excelsis. Benedictus
qui venit in nomine Domini.

感謝の讃歌

聖なるかな，聖なるかな，聖なるかな，
万軍の主なる神。
天と地は主の栄光に満てり。天のいと高きところにホザンナ。
主の御名によりて来たる者は幸いかな。

AGNUS DEI

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
miserere nobis pacem.

平和の讃歌

神の小羊，世の罪を除きたもう者よ，われらを憐みたまえ。
われらに平和を与えたまえ。

曲目解説

1824年にオーストリアの片田舎アンスフェルデンで生まれたアントン・ブルックナーの生涯は，1896年にヴィーンで死ぬまで，格別大きな事件もなく，大河のごとく静かに，遅々として経過していった。彼はまず，彼の父と同じように教師になったが，音楽的才能に秀でていた彼は1848年に，かつて少年合唱隊の一員として過ごした聖フロリアン修道院のオルガニストを勤めることになる。そこでの研鑽は，のちに彼が当代随一のオルガニストとしてヨーロッパ各地で絶賛を博する基礎を作ったが，同時に作曲家としての創作活動にも大きな意味をもった。彼はまた，オルガンの勉強を積むかたわら対位法の大家であるジィーモン・ゼヒターらについて音楽理論を徹底的に学び，その結果彼は和声，対位法，通奏低音などに十分に習熟することができた。彼の作品には，これらのことが強く反映しているが，もう一方で彼の音楽に重要な意味をもっているのは，先人たちの音楽である。ことにヴァーグナーからの影響は一般に強く取沙汰されているが，ブルックナーの音楽をヴァーグナーの亜流と考えるのは明らかな誤解であるとは言え，しかし彼のヴァーグナー体験が彼の創作に一定の意味を持っていることは否定できない。

ブルックナーは，しばしばモーツァルトと対照させて，大器晩成の典型と考えられている。すぐれたブルックナー伝を書いたマックス・アウアーの作品表によれば，彼はすでに11才の時に創作を始めてはいるが，主要作品の成立年代を考えるとき，その指摘は正しいと言わねばならない。彼の代表作である交響曲を例にとって考えてみると，第1交響曲の完成は40才をすぎてからであり，最も有名な第4交響曲は50才の時に書かれている。そして第7交響曲によって作曲家として初めて認められたのは，還暦を迎えた後のことであった。

それにしても，他の諸家と比べて決して多いとは言えないブルックナーの全作品は，ほとんどが交響曲と声楽曲に限られており，その他目を引くのは，弦楽四重奏曲と弦楽五重奏曲各1曲ぐらいなものであろう。交響曲作家としてのブルックナーはさておき，曲数の上では交響曲をはるかにしのぐ彼の声楽作品には，ロマン派の多くの作曲家たちの関心の的であったオペラは一曲も含まれず，またピアノ伴奏付の独唱歌曲もほとんど無いと言ってよい。ブルックナーの声楽曲はおおむね，彼が係わりをもっていた教会と合唱団のためのものなのである。教会音楽家としてのブルックナーを如実に示している彼の宗教的声楽曲は，今夜演奏される二曲を含む大規模な作品と，無伴奏であることが多い小規模な作品にさらに分けうるが，いずれの場合も，彼が敬虔なカトリック教徒であったという事実と無関係ではない。彼の場合，交響曲もそうだが，作品は「神によって啓示を受け，神に献げられた」のである。この意味で交響曲と教会音楽というブルックナーの創作の二本柱は，彼の内部で密接に関係し，絡み合っていると言えよう。しかしながら，交響曲の大部分（第2交響曲以後）が1868年に彼がヴィーンに定住した後の作品であるのに対し，教会音楽の代表作の多く（テ・デウム，詩篇第150番などを除いて）は聖フロリアンカリンツでオルガニストをしていた時期の作品であるということ，マーラとは違って声楽作品と純器楽作品をはっきり書き分けていること，などのために，二つの領域にははっきりと様式的な差異を認めることができる。ブルックナーの音楽は近年日本でも大きな人気を得つつあるが，その名声は残念ながら交響曲に限られていると言わねばならず，その意味からも本日の演奏の期待されるところは大きい。

ミサ曲第3番　ヘ短調

1867年2月にヴィーンで演奏されたニ短調ミサ曲第1番の成功によって，ブルックナーは宮廷礼拝堂から新しいミサ作曲の依頼を受け，彼はさっそくそれに着手したが，重い神経疾患によって作曲の中断を余儀なくされた。病気は8月には快方へ向い，彼は健康をとりもどしたことを神に感謝する気持をこめて，この新しいミサを全く新たに作曲し直したのである。同年9月14日にキリエのスケッチを始め，さまざまな曲折を経た後，翌1868年9月9日に，全曲が完成された。そ

の後彼は，1876年，1877年，1881年にきわめて些細な修正を行ない，さらに1890年から93年までの間にオーケストレーションを若干変更した。この最後の改訂は，1960年に出版されたノヴァーク教授によるブルックナー協会版において初めて明らかにされた。この新しいミサ曲第3番は，彼の完成されたミサ曲の第6番目のものであるが，ブルックナーはその後次第に創作を交響曲へ傾斜させていったために，これが最後のミサ作品となった。初演は，ブルックナー自身の指揮によって，1872年6月16日ヴィーンアウグスト教会で行われた。

キリエ（ヘ短調，4／4拍子，モデラート）は歌詞に従ってA—B—Aという三部分に分れているが，全体を通して厳粛な気分がみなぎっている。**グロリア**（ハ長調，4／4拍子——2／2拍子，アレグロ——かなりゆっくり）は打って変って明るく，大きく二部分に分れている。変則的な複合三部形式で構成された前半において歌詞はすべて音楽化され，後半は歌詞の最後の　「父なる神のうちにあらんことを，アーメン」だけを何度も繰返した，壮大なる二重フーガとなっている。**クレド**（ハ長調，2／2拍子，アレグロ）は歌詞自体が長く，全曲中で最大の規模をもっている。オーケストラ，合唱，重唱，独唱がからみ合って進み，曲想の上でも変化に富んでいる。**サンクトゥス**（ヘ長調，4／4拍子，モデラート）と**ベネディクトゥス**（変イ長調，4／4拍子，アレグロ・モデラート）は，ミサ作曲において普通一つの楽章を構成しているが，ブルックナーはこれをはっきり分けている。ただ両者の最後に共通する「オサンナ」には彼は全く同じ音楽をつけた。したがってこの二つの楽章を回式で表わせば，A－B//C－Bとなる。**アーニュス・デイ**（ヘ短調，4／4拍子，アンダンテ）キリエとこの楽章だけが主調のヘ短調で書かれている。二部分に分かれ，前半では「神の小羊」と歌い出すフレーズが3度変奏されて現われる。ヘ長調に転じた後半は，キリエのモティーフに支配され，グローリアのフーガのテーマも顔を出す。そして最弱音のうちに曲は閉じられる。

テ・デウム

ミサ曲第3番の完成以来，大規模な教会音楽に久しく遠ざかっていたブルックナーは，1881年にこのテ・デウムに着手し，5月に一応スケッチを完成させたが，その後すぐに第7交響曲に取り組んだため，その草稿は2年ほど手をつけられずに置かれた。そして第7交響曲完成の直後から3週間ほどを費やして，1883年9月28日にテ・デウムのスコアはできあがった。彼はさらに，翌1884年3月にそれを練り上げ，オルガン声部を付け足してより完全なものにした。この曲は1885年12月にヴィーンで出版されたが，これはブルックナーに彼の生涯唯一の作曲家としての報酬をもたらしたのである。初演は，同年5月2日にヴィーンでブルックナーの指揮のもとで，オーケストラの代りに2台のピアノを使って行なわれた。その後テ・デウムは彼の存命中にも各地で何度も演奏され，好評を博した。これまでに大規模な交響曲をたくさん書いてきたブルックナーの円熟が十二分に示された傑作である。

彼はテ・デウムの歌詞を五部分に分けて作曲している。歌詞全体の約3分の2を使った**第一部**（ハ長調，アレグロ・モデラート）は合唱を主体とした，活気ある華々しい部分である。冒頭に現われる8分音符の音型が全曲を統一する役割をになっている。 Te ergo からが**第二部**（ヘ短調，モデラート）である。独唱者たちの静かな慈悲を求める歌が聞かれる。**第三部**（ニ短調，アレグロ・モデラート）は，Aterna fac で始まり，第一部と同様合唱が主役を演じる。短かいが劇的な力にあふれている。 Salvum facで開始される**第四部**（ヘ短調——ハ長調，モデラート——アレグロ）は2つの部分に分かれ，前半は第二部の変奏的反復，後半は第一部と同じ素材によって成り立っている。 In te Domine speravi 以下が**第五部**（ハ長調，適度に動いて）である。重唱を合唱でしめくくったあと，壮大なフーガが続く。そして弦楽器に冒頭のモティーフが再び現われて，テュティで全曲の輝かしい最後が飾られる。

団員　鯨が生まれてから五年位たっているんですけど，それで週一回の練習でやっているわけですが，この合唱団の性格とか声の質についてどうお考えでしょう。

小林　声の質について言えば，音程をよくとれる人が多くてね。（笑）ぼく，ブルックナーで感心してるんだ。たいした練習もしないくせによくできると思って（笑）でも個人的にはみなさん日夜努力を続けていらして…。アマチュアの合唱団でこれだけ音程がとれるところをぼくは知らない，それほどの努力もせずに（笑）これは才能だと思うんですよ，鯨の唯一の…（笑）短所は，発声がわりと単一であること，幅がないこと，これを長所ならしめることができたら，鯨は大きく伸びることができる合唱団だと思いますよ。

団員　声の幅とは，いろいろな音色がだせるということでしょうか。

小林　まずね，それをほっしているんだな。それからfeelingをかえることで随分違う。レガート，テヌート，モルト，スタッカート……。いろいろあるでしよ。*sf- dim. -p*にするとか，ほんとに多彩ですよね。それを心の中で整理できて瞬間に反応できれば随分違うと思うのですが，なかなか難かしい事ね，みなさん一緒になってやらなければいけないから……。男性の発声などは，わりと一本調子なんですよ。大きく出していればよいと言うのじゃなくて，小さくても響く声があることを考えてほしいんだな。ぼくね，デル・モナコを聴いて，あの人が大きい声出して，ちっとも大きい声だと思わなかった。確かに大きい声かもしれませんね。でも期待してたよりずっと小さい。ところがティバルデイが一緒にいてね，*pp*をやると彼の声より大きいんだよ。つまりティバルデイの*pp*とデル・モナコの*ff*はね，*ff*の方が小さいんだな，意味は変だけど実際にそういうことが現象としてでてくるのね。ジュゼッペ・ディステファーノがね，*ff*で歌った時と*pp*で歌った時では，*pp*の方が響いている。むこうの人はなんらかのかたちで*pp*に対する特異な才能があるんだと思うんですよ。*pp*を体の隅々まで響かせることができるんだな，それを鯨は会得してほしいんだ。表現力はあるし，音楽的にも恵まれた人が多いし，音程もとれるというとね，それで一本調子に歌われたら，全部がそこなわれると思うんだ。だからそれをこれからの課題にしなければならないと思う。これが成就されれば，鯨はユニークというだけじゃなく日本の合唱界の最先端に立てると思うんだ。

団員　ところで，先生は，ブルックナーを指揮されたことはありますか。

小林　ええ，Emollのミサ，ぼくはあっちの方がすきなの。三番のミサが，ブルックナーの最大の傑作と言われているけど，ぼくはそうは思わないんだなあ。やたら長かったり*ff*が続いたり……。そうとう高度の技術を持った合唱団でなければこなせないと思うし，指揮者もブルックナーに造詣の深い人でなければだめだと思う。今回は若さばかり先走った演奏になると思う。どっちも若いでしょ。鯨もブルックナーは，初めてだし，ぼくも初めてだし，初めてと同じよね。前にやったって……。

団員　ここ数年日本では，ブルックナーのレコードがでたり新聞にとりあげられたりして随分もてはやされて来ましたが，これはどうしてでしょう。

小林　ぼく自身は，ブルックナーに対してそれ程魅力を感じないんだけど，まあ言えば，ベートーベンを長く聴いて来た人は，なんらかのかたちで他のものをほしがるでしょ。その時にブルックナーは，ちょうどいい中間を占めたような気がする。たとえばストラビンスキーにいくとまだとっつきにくいという人が，ブルックナーならひょっとしたらひょっとするんじゃないかという感じで考えているあれが多いと思うんだ。それから冗漫というか気の長い人はブルックナーみたいなのを聴いていられると思うんですよ。金管の連中は，ハーモニーのきれいさというかそういうので長く聴かされるのに妙な意味で変な恍惚感を感じるんじゃないかと思うんだよ。それから他の人がブルックナーを好きだと言うから自分も理解しようと努めてわかったような事を言う人が多いと思うんだけど，日本人の感覚からすれば，ブルックナーというのは，特殊な人から見て特殊な存在にしかなり得ないと思う。同じ厚みを年中同じように処理したりしてね。
作曲学的見地から言えば，ばからしくなって……。だから鯨はそういうので悩んだと言っていいと思うんですよ。曲自身に悩み，指揮者も悩み……。でもあと一月あるでしょ。ブルックナーに没頭して最上のものにしたいんですけど。自分自身なりに。

団員　合唱団をたくさん持ってらして，自分の好みで選曲するとしたらどんな曲をやってみたいですか。

小林　ベルリオーズのレクィエム，小沢征爾の練習を初めて見たのがこれだったんだ。その時からベルリオーズというのは，ぼくにとって大きな位置を占めているんだな。

団員　小沢征爾を目標にされている根拠は？

小林　「話の特集」という本にも書いたんですけど，実に心憎いまでに人を瞬間につかんでしまう……オーケストラもそれに魅せられたように音を創っていく。日本に帰るたびに変貌していて彼の行動，音楽，かけひき何から何までこう何というかすべてが音楽的だと思いません？

団員　話はかわりますが，アマチュアの演奏団体にどんなことを期待してらっしゃいますか。

小林　ある曲を消化できる期間が，長ければ長い程，人間の心の反応が多くできるということ，それがアマチュアのよさだと思うんだ。職業に関係なく，純粋に最も自分の期待するものに到達できる唯一のものだと思うんだ。たとえでてくるものが稚拙であっても常に新鮮でハートのあるものになれるということ，可能性があるということがうらやましいというか……。

団員　そうすると，プロよりも心をこめる期間が長いということに意義があるというか……。

小林　プロが心をこめないというのではなく，大切に自分で育てて，それが稚拙なら稚拙なりに共感を呼ぶ度数もむしろ高くできると思うから。

団員　作曲家としては，技術面にすぐれたプロよりも，時間をかけて，その曲を大切に育てるアマチュアの合唱団に歌ってもらいたいというような事は考えるでしょうか。

小林　それはあります。二，三回で定期演奏会や特別演奏会にもっていくプロよりは，血と肉となんとかという言葉があるように，そういう相関の仕方と音楽を浄化するという意味においてはね。アマチュアの方が，ずっとまさった環境にあるのが，うらやましいですね。

（飲み，話し，歌いながら……）

鯨とブルックナーと私

僕が『鯨』の前で棒をとったのは，去る三月の合宿と数回の定期練習だけであるが，久し振りの指揮である僕にとっては大いに勉強にもなり，血わき肉躍るものがあった。しかし僕のような若輩者にその大任が務まるわけもなく，かえって小林先生や皆様に御迷惑をかけてしまい，おおいに恐縮している。その罪ほろぼしか「プログラムに何か書いて下さい。」と言われると，ただでさえ美人に弱い僕に断われる力があるはずがない。

そもそも，『鯨』の最も得意とする処は，Beethoven でも Bruckner でもなく，このように人に何かをやらせる時，実に見事にしかも都合のいい条件でＯＫさせてしまう事にあると僕は信じている。ある時は人の弱みにつけこみ，ある時は自分の弱みを見せびらかして，実に小憎らしい限りである。小林先生も折りに触れそのような事を申され，お互いの内気を嘆く事しばしばである。

「合宿，…日…日なんですが中村先生いかがでしょうか。」

先生などとはおよそ呼ばれたことのない紅顔の美少年をつかまえて，真顔で言うをはばからない。

「曲は……と……ですが。」

「エッ，そんな大曲？　全曲やるの？」

「エエ，練習時間は朝９時～夜９時までとってあります。」

「エッ」

「それから合宿の伴奏者とヴォイストレーナーを２～３人お世話願えませんか。エエできるだけ上手で安くお願いできる方。それから例のアレンジいつごろ出来ますでしょうか，それから……」

いやはや凄腕である。とてもたちうちできない。そんな訳だから『鯨』から頂戴したギャラは，血と汗で得た貴重な金である。しかし『鯨』の魔の手はとどまるところを知らず，観光会社の若旦那と慶応と東教大の秀才はそれぞれ一見紳士風を装い，それすらをも麻雀でまきあげようとする。『鯨』の練習場から歩いて10分のアパートを移ろうかと，目下真剣に考えている。

その『鯨』が Bruckner をやるという。しかも第３ミサとテ・デウムという大難曲に取り組むというから，とにかくその意気込みは素晴らしい。彼の曲は評価も高く，放送やレコード等でよく耳にする割りには，国内で実際に演奏されるのは稀である。その意味でも意義ある貴重な演奏会となる素質を持っている。

思うに彼は非常に不器用な推敲努力型の作曲家であったに違いない。巧拙で点をつけるなら，およそトップクラスの作曲家とは呼ばれまい。流暢な旋律とは縁遠いし，とろけるような響きも連続しない。１つのフレーズにとっつかまると，それから脱出するのに大変な苦労をしている。だから，曲は自然と，時には不必要に長くなる。彼自身おそらくそれに気付いていた。そして何度も何度も昔の曲をひっぱりだして手直しをする。うまくいったりいかなかったり。作曲をかじっ

中村健

東京芸術大学作曲科四年在学中　現在神戸中央合唱団伴奏者
鯨にとってたいせつな練習指導者のひとり

た者としてその気持は痛いほどわかる。しかし不器用な彼ではあるが，その譜面の細部に至るまでの誠意は，まことに類稀なるもので，最も尊敬すべき作曲家の１人であると思う。

とは言え，好ききらいで言うなら，彼を含め，Wagner, Brahms, Mahler, R. Strauss, そのあたりの連中の作品は，どうも好きになれないものが多い。J. S. Bach, Haydn, Mozart, Beethoven, といった大きな音楽の流れによってほぼ完結した形として，すでに１つの金字塔をうちたてられており，それを発展させた形として彼らをとらえるのが通例であるが，彼らの不幸はその付近にあると思う。僕にとって彼らの作品は，その金字塔の単なる付属物にすぎず，輝かしき巨星達をのりこえることは決してなかった，と考えるのである。公的演奏会が音楽界の主導的立場をとり，音楽家が宮廷から独立し，地位と名誉を与えられると，音楽のもつ個人の私的な訴えが忘れられ，儀式化への道をたどり，そして長大かつ大編成のものが無批判に流行するに至って，空しい世界へと導かれることになる。そして音楽家はますますエラクなっていったのである。なんとなく自分がとり残されたような，ステージと客席がすごく遠くなったような，我慢できないものが彼らの作品にある。

『鯨』のように，年に幾度もオケ伴のステージを単独でもてる合唱団は，ほんとにうらやましい。僕は関西の合唱団に多少の関わりをもっているが，およそ『鯨』のようなスタイルを持った合唱団を知らない。たまにオケ伴の機会に恵まれても，幾つかの合唱団のよせあつめであったり，練習に体育館を借りたりで大変である。第一，オケが少ないし，当然オケ振りも少ない。苦労の末，なんとかやってみるが，慣れぬこと故，パッとしない。東京ならではこそできることで，猛烈なジェラシーを感じずにはおれない。その反面，無伴奏やせいぜいピアノ伴奏で長年やってきた人々には，『鯨』のような大まかな合唱はおそらく大いに不満を感じるであろう。確かに本番のオケと合唱との音響的効果はすばらしく，酔うムードは充分にあるが，オケの音に甘えた合唱は，ふとしたはずみに破綻を呼ぶ。『鯨』はそうではない，とはどうしてもいいきれない。もう少しデリカシーを，そしていろんな種類のトーンを。そうしないとピアノ伴奏での練習は乾きっぱなし，ほんとに惜しい。

栄えある演奏会のプログラムに失礼をかえりみず，大変な暴言申し分けなく思っております。麻雀の恨みはかくも恐しいものであると御記憶されますれば，後はどうぞお忘れになって，素晴らしい演奏会となりますよう精一杯お歌いください。

おそくなりましたが，本日は誠におめでとうございます。

より高く，より力強く，あたたかく

色々な職業を持った人々が，幾多の困難や苦しみを乗り越えて〝合唱〟をしようとするのです。一人一人の音楽的体験や，知識や，教養もみなまちまちなのです。でも，いつでもより高く，より力強く，と皆が助け合って努力することによって，〝鯨〟は素晴しくなって行くのだと信じています。道はとても険しくて，時間は厳しく容赦なく過ぎて行きます。助け合わなければ駄目です。自分よりも遅れている人には，せめて自分と同じ高さにまで引き上げてやろうとする心づかいが，自分自身が努力しながら，合わせ持たなければならない〝あたたかみ〟なのだと思います。

道は幾多の困難が待ち構えていて，何度でも私達を行き悩ませます。行きすがらの〝楽しみ〟は，ほとんど無いと言っていい位です。だけど，——だから，短い故に大切な一生のその中のひとコマの青春は，価値あるものに賭けるべきだと思っています。一つの演奏会は，時間を限って登らなければならないと，皆が決めた山なのだと思います。頂上に出た時，本番のライトに照らし出された時，幸福な緊張と，少々の晴れがましさは，〝より高く，より力強く，あたたかく〟と精進して来た者にとってのみ許される〝楽しみ〟ではないでしょうか？

山を一つ，また一つと登るうちに，今迄には無かった〝何か〟が，精神の何処かに生まれて来たのに気付きませんか？　私にとって，〝鯨〟は，精神の道場なのです。

今宵，ブルックナーの三番のミサと，テ・デウムを歌うことが出来る喜びでいっぱいです。ここで又改めて，聴いて下さる方々，指揮者の方々，伴奏して下さる方々，そして私のまわりの大勢の団員の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいのです。

鯨よ，永遠なれ　　**（Alto　小野弥生）**

天命を待つ

総勢二十名弱。遺憾なことにわがテノールは演奏会のあとでいつも一番厳しい評価をうけることが多いようです。これはどうやらテノールが全体のバランスをみだして目立ってしまうためらしい。だがそれもすべては，少数の手勢をもって圧倒的な女声やオーケストラの響きに伍してゆくため天性の美声を犠牲にしても音量に奉仕しなければならないというわれらの悲しい運命のためなのです。その少数の精鋭達がブルックナーの練習を始めたのが今年一月，以来オーストリアの一作曲家が今から百年程前に書きのこした譜面ととりくんで懸命の努力を続けて来ました。何しろ〝鯨〟始まって以来の難曲であり，思いがけない転調，大きな音程の飛躍，高すぎる音低過ぎる音とどのパートも苦労の連続でしたが，我々もまた例外ではあり得ません。そもそも普段おしゃべりをしている時には絶対使わないような高い音程で歌うという意味で，テノールは非日常的なまた非人間的な声を必要としますが，ブルックナーの要求には人間としての限界をこえるものがあり，これに較べればこれ又無茶な要求をするベートーベンも大変良い人間に思われてくる位でした。とにかくも譜面に書いてある音は出さないわけにはゆかず，しかし出ない音はどうやっても出ないわけで，例えばトップが高いGisを張っている所をのりこえてセカンドがBを歌う所など一体どうしたらよいのでしょうか。これなどほんの一例に過ぎないのです。どうしたらよいのでしょうなどとぼけた顔をしているわけにもいかないからどうにかするわけですが，時にそれが悲鳴の絶叫ときこえても大目にみていただかなければいけません。「こんな曲をとりあげるなんて正気とは思えない。」と某君は嘆きますが，ここまで来ればもはや人事を尽して天命を待つ以外にないのです。そして天命が微笑んで皆様がいささかでも感じる所のある演奏会が行えれば我々一同の半年間の苦労も報われます。Non confundar in aeternum ——われらが望み，とこしえに虚しからじ。（「テ・デウム」の詞末尾）　　**（Tenor　宮崎　純）**

C に 思 う

金曜日夕方七時近くになると，わがソプラノ諸女の足は，大久保〝学生の家〟に向かう。火曜の定期練習の他に，このパート練習は，とほうもなく難曲しかも大曲である今回のブルックナーには必要不可欠の大切な日となっている。〝ミサ三番〟〝テ・デウム〟二冊の譜面を手にしたわれらソプラノは問題の「C」（〝テ・デウム〟最終部分）の存在に驚き，愕然とし奮起せざるを得なかった一月の初練習だった。多人数を誇り〝鯨〟の〝鯨〟たるを

はばからない位置を占めていたソプラノの数が激減したのは，選曲がブルックナーの〝ミサ〟〝テ・デウム〟に決定していながらも団内が大きく揺らいでいた昨年暮れ近くから新年にかけてだった。ブルックナーとは思いもかけなかった……初めて接する……現在までの曲とは大分趣きを異にする音の運び……。私達はここで和音と音色の常識をことごとくかなぐり捨てなければならなかった。大きく動揺していた中で生まれた各パート内でのブロック（その中で緊密な連絡網を確立し豊かなコミュニケーション，しかもそこでは将来あらゆる種類の音楽活動が行われるという高い理想のもとに成りたったいわば音楽のユートピアのようなものとして）を中心に討論・練習というふうにパート練習は運ばれていった。とはいうものの残されたパート練習の方法は，丹念に音を拾って積み重ね完成していくしかそれはなかった。微妙な域で変化する音の運び*fff*・*PPP*・感激する間もなく譜面と根くらべという状態の苦しい練習だった。〝テ・デウム〟最終部の「C」が，ツェーになるかシェーに終るか大きく小さく期待されているソプラノである。

（**Soprano　遠藤越子**）

練習の中から

今回のブルックナー演奏会を開くために合唱団〝鯨〟では昨年暮れの「第9交響曲演奏会」の後，年が明けて間もなく練習にとりかかりました。その練習の中からいくつか御紹介します。

1月11日（火）　この日はブルックナーの初練習，〝MESSE〟の第1曲目の「KYRIE」によって，6月6日へのスタートが切られました。

2月8日（火）笠谷選手の金メダルの話題の中で，〝MESSE〟曲中で最も難曲の一つである「CREDO」の練習が続きます。小林先生は，〝この曲〟を乗り越えれば〝MESSE〟の半分は終ったようなものだ。とおっしゃっていました。

3月7日（火）　長い間「CREIDO」に時間をかけていましたが，この日から「SANCTUS」に入り，曲全体を把握するため，小林先生はソロをパートリーダーに受け持たせ，又，次の週の練習日にはこの曲を暗譜で歌わせる一幕もあり，練習のピッチは次第に上がって行きました。

4月30日（日）　「〝MESSE〟はいいけど〝TE DEUM〟の方は？」という声がかなり聞かれました。この日は読売ランドでの合宿の二日目でした。この時とばかり団員一同張り切り，この日一日でなんとかベートーヴェンの「第9」を思わせるような〝TE DEUM〟のフィナーレにたどりついたのです。

（**Bass　金井次郎**）

うたっていることの重要性

メゾソプラノという，ソプラノにも属せずアルトでもない極めて曖昧な立場におかれている私達のパート。パートに属す一人一人の声の質もまったく色とりどりなのだからしようがない。としても，鯨ではそんなことはおかまいなし。ソプラノと一緒になって当然のごとくAやHの音を使いこなさなければならないのが現実である。「そんな高い音なんかでないわ」などと居直っていた人達も「メゾ，音が低いぞ」との指揮者のお叱りに奮起し，ソプラノの輝かしいばかりの甲高い音色にいつしか誘われ，思わず奇怪なる声を張りあげるに至るのである。

週に一度，メゾのおかれる曖昧な場を合唱自体の中でしっかりしたものにするため設けられるのがパート練習である。全体練習ではあっちこっちの人達に消されて聞こえなくなってしまう自分の声が，少数で同じ旋律を歌う練習となるといやでも露わにされ，いろんな意味で，あらためて自分自身がうたっていることの重要性を感じさせずにはおかれない。ここでならば，覚えられない旋律を何度も繰返し練習することもでき，人の注意に耳を傾けることもでき，へたであることのはずかしさなど全く気にしてはおれない。たとえ単調な練習にあきあきするとしても，これほど基本的な練習はないことをみんな自覚している。としても，全体合唱での他のパートの旋律を思い浮かべ，伴奏の流れを思い浮かべながら歌い，かつ自分の声に耳をすませるということは何とむずかしいことか。

練習の合間，熱したノドをうるおし，お菓子を食べながら雑談いや合唱団のことで真剣な話に花が咲く。そして気がついてみるともう練習もおわりの時刻，そんなことがしばしばというのが現状なのである。

（**Mezzo Soprano　平沢孝子**）

鯨と新響

合唱団と新交響楽団は，芥川也寸志先生と小林研一郎先生を共に音楽監督と指揮者として仰ぐ兄弟団体であり，事務所も共同で使用しています。どちらが兄かといえば年令は新響が16才で鯨が５才，団員の平均年令も新響の方が高そうです。

ただ実際はもちつもたれつで，夏は鯨の主催に新響が賛助し，暮の第九では鯨に合唱を依頼するというような関係になっていますのであいこといえましょう。

鯨　紹介

インスタント食品の例を挙げるまでもなく，自ら求め創りだすのでなく〝与えられるもの〟が全盛の昨今であります。音楽の世界もその例にもれずありとあらゆる種類の音楽が，様々な媒体を通して好むと好まざるにかかわらず私達の耳に飛込んできます。そしていつの間にか，そういうものを右から左へと聞流す妙な技術を身につけてしまっているようです。そんな中で，自ら音楽を求め，自らの音楽を創造したいと願う人達も少なくないはずで，鯨は正にそのような人々の集りであります。音楽を自分から求め，創りあげ，その中で自分を主張して得た感動程大きなものはありません。それは我々人間としての生きる喜びであり，ひいては我々に生きる力をも与えてくれるものです。しかしながら一つの音楽を創造する過程における苦しみには並々ならぬものがあります。ましてやそれがアマチュアとしての種々の制限を受けている場合は尚更であります。今回，鯨はブルックナーの難曲に取組みましたが，丁度それは図体の大きな鯨が，ここと思えばまたあちらと泳ぎまわるオタマジャクシを大汗をかいて懸命に追回しているようなものです。（この例は凡そ非科学的でありますが）お陰で鯨は大分やせ細りましたが，今夜はこのブックナー流美容体操の効き目の程をじっくりとお聞き下さい。

（文責　高橋章夫）

新響紹介

生れかわるか新交響楽団　新交響楽団はいま一つの壁を破ろうとしています。団体に所属している方にはご理解頂けるかと思いますが，年数が経って人数が増え，一応の体裁がととのいだすと，構成員個人の熱意も空転したり，薄まってしまったり何となくちぐはぐな面がでてくるという問題です。

本来はあまり外部へ知らせるべきことではないのですが，１カ月余に亘る全員団の熱心な検議のうちに，幸いある統一の方向を見出すことができ近くその一歩を踏み出すことができそうなため敢えて賛同を得るため公表します。

新響の将来　それは新響がどうなくてはならぬかということになるのですが，その第１は団員が納得できる演奏をすること，その第２は新響を聴いて下さる方々の共感を得ることのできる演奏と活動をするということなのです。言葉ではナーンダということになりますが，行うのにこれほど困難なことはありません。具体的には技量の向上と相俟って質の高いヴァラエテイに富んだ演奏活動が今後展開され，プロのオーケストラに表現できないものを打出して行くことになります。

形式として財団法人化を目ざすとか，海外へ演奏旅行をするとか種々ありますが，新響を理解し積極的に応援し，聴きに来て下さる方々が沢山増えることによって更に私共の意欲が高められるという相乗効果に期待するところも大です。

（文責　太田雅夫）



〝オーケストラの名曲800選〟をさしあげます

古今の管弦楽曲2500の中から，演奏会のプログラムにのぼりやすい基本的な800曲を作曲者別に並べ演奏時間，総譜の出版社，定価を表示しました。ご希望の方には無料でさしあげますので，住所，氏名，年令，職業，新響の登録会員か非会員かの別を明記して20円切手同封の上，下記迄申込下さい。

新響の演奏を聴いてください＝登録会員募集中！

年数回の演奏会に往復ハガキで案内をさしあげ，ご希望の時だけお申込いただくというものです。割引料金でプログラムも無料です。ハガキで，住所，氏名，年令，職業，ＴＥＬ明記の上，下記までお申し込みください。

〒160　新宿区須賀町14　大湊ビル　**新　交　響　楽　団**
ＴＥＬ　357—5255（但し月水金午後のみ）

新響・鯨合同演奏会予定　　12月17・19日

ベートーヴェン「**第九交響曲**」　日比谷公会堂

あなたも鯨の団員になれます。
火曜日渋谷のカワイシヨップで
いっしょに歌いませんか。

後援会員も募集します
依頼演奏を受付けます
お問い合わせは下記へ

合唱団鯨事務所　〒160 新宿区須賀町14 大湊ビル
ＴＥＬ　357—5255（12時～18時）

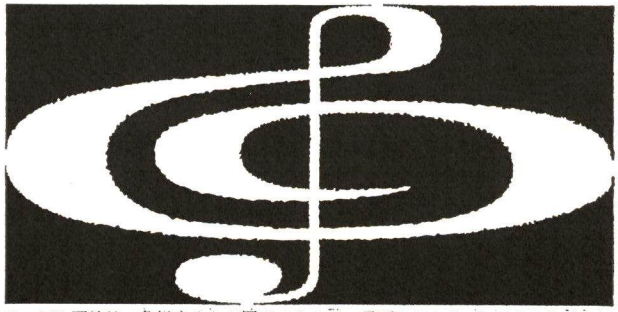
プログラムメンバー

岡崎比佐子　阿部節子　金井次郎　庭山蓉子
船戸牧子　見附芳史　横井直樹　鈴木常子

表紙デザイン

西野博和　浦本忠光　三浦澄子

より豊かに　より楽しく ——



モービル石油は、急増するわが国のエネルギー需要にこたえ、すべての人びとが豊かなくらしを楽しむ輝かしい未来に、挑戦いたします。

Mobil
モービル石油

HYFAX ホール音響装置

プロフェッショナル音響装置の専門メーカーです



東京地区の代表的な納入先
- 東京郵便貯金ホール
- 東京厚生年金会館
- 明 治 座
- 日生劇場
- 朝日生命ホール
- イイノホール
- 日仏会館ホール

←ホール音響調整室

不二音響株式会社

本社　港区西新橋２丁目５－10　TEL501－3161

音楽と詩と光の中で

思わず**プッ**と吹き出したくなる
結婚式はすでに過去のもの……

お２人の新しい人生のスタートは
厳粛で、祝福と感動につつまれた
結婚式場をお選び下さい。

音楽結婚式

ウエディングホール

地下鉄銀座線神宮前駅下車10秒　TEL (409) 3591～5